

夢は麦の芽

「大きくなったら野球選手になりたい。」「ケーキ屋さんになりたい。」子どもの頃の将来の夢が現実味を帯びた人生の目標となっていくのはいつのころからなのでしょう。人それぞれにきっかけがあるので、必ずしもいつまでに決めなければならないというものではないでしょうが、やはり高校や大学になるとそれなりに専門的な知識を学ぶわけですから、漠然としたものであっても中学生時代に自分の将来の職業を考えることは重要なことだと思います。

またその時期の親はというと、やはり自分の子どもの適性を見ながら、本人にあった職について欲しいと思い、そのために協力できることなら何でもやってあげたいと思うでしょう。

ただ全ての子どもがこのように理想的な道をたどって職業に就くわけではありません。むしろ様々な困難がついて回るの方が自然かも知れません。子どもと親とで将来の夢に食い違いがあったり、子どもを応援したくてもそれを許さない家庭の経済状況があったり、残念ながら本人に才能がなかったりと、挙げればきりがありません。

やはり夢を実現することは難しい。ならば周りの人が励まし、応援し、協力して本人を支えてあげるべきなのでしょう。そうした周りの人々の行動が正しいのか正しくないのか、私にはわかりません。ただ、私は夢を持つ本人に次のことだけは言いたいと思います。

夢を追うにはとてつもないエネルギーが必要になります。夢は大きければ大きいほどそれを阻み、諦めさせようとする力は確実に大きくなるものです。「そんな夢捨てちまえ！」と言われて諦める程度の夢なら、最初から持つまでもなかったものなのです。時には自分の非力さに打ちのめされるかもしれません。四方が塞がれたらその間の八方を、それも塞がれたら十六方を進んでみましょう。努力をすることで道を開く可能性があるなら、それはまだ幸いだと思いましょ。それでもどうしようもなくなったら、いったん忘れたって構いません。諦めてしまわなければ、もう一度始めることだってできるかもしれないのです。

秋から冬に蒔く小麦は、寒い冬を過ごし春にかけてその実を付けます。

通常の農作物と全く正反対の時期に育てようとするこの作物は、芽が少し出たところで麦踏みという作業も行います。踏みつけることでより強い茎や芽に育つからなのですが、なぜそこまで痛めつけられても小麦は伸びるのだらうと子どもの頃不思議に思ったものです。

誰に何と言われようとも諦めきれないもの。その実現のためならすべての情熱を注げるもの。そんな職業を夢に持ち、生きていけるとするならば幸せなことではないですか。